

ひだまりのギフト展

バレンタインやホワイトデーのギフトにぴったりのスイーツ、アート&クラフトを集めたポップアップショップが登場します。

参加団体：アート・インクルージョン（仙台市）、希望の星（仙台市）、きゅう（石巻市）、コッペ（仙台市）、多夢多夢舎中山工房（仙台市）、ぱれった・けやき宮城野（仙台市）、ワークスペースぼぼ（仙台市）、Wonder Art Studio / ARTS for HOPE（宮城県）他

令和4年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務（運営：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン）



としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示

[会場] 2階バリアフリーカウンター / 3階選書コーナー

読書には、紙に印刷された文字を読むだけではない、いろいろな楽しみ方があるのを知っていますか？ せんだいメディアテークと仙台市図書館が持っているバリアフリー資料を紹介いたします。

主催：仙台市図書館、せんだいメディアテーク（公益財団法人仙台市市民文化事業団）



申込方法（南東北・北関東ブロック障害者芸術文化活動支援センター研究発表会 / 共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック）

会場で参加ご希望の方は、WEBサイト内の申込フォーム、または下記の必要事項をご記入の上、郵送・電話・FAX・メールにてお申込みください。定員になり次第、締め切らせていただきます。定員を超えてご希望に添えない場合のみ、ご連絡いたします。

申込フォームは
こちら



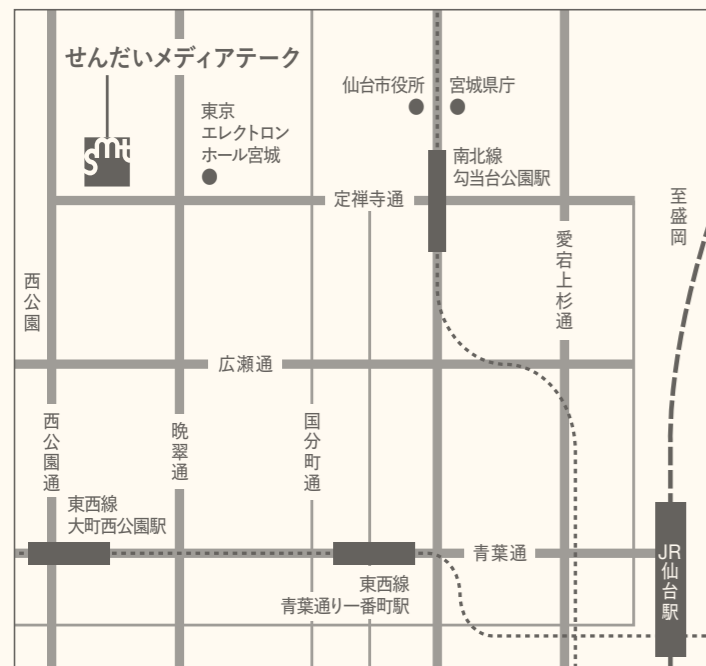
必要事項

- ①参加希望のプログラム
- ②お名前（ふりがな）
- ③所属・活動
- ④連絡先（居住市町村名、電話番号・FAX・Email）
- ⑤同伴者の有無、必要なサポートなど

会場

せんだいメディアテーク

〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町2-1



交通案内

【徒歩の場合】

○仙台駅より約20分

【地下鉄の場合】

○南北線勾当台公園駅下車、
「公園2」出口から徒歩6分（約450メートル）

○東西線大町西公園駅下車、
「東1」出口または「西1」出口から徒歩13分

○東西線青葉通一番町駅下車、
「北1」出口から徒歩15分

【バスの場合】

○仙台市営バス仙台駅前60番
（仙台TRビル前・地下鉄仙台駅「中央2」出口前）のりばから
「定禅寺通市役所前経由交通局大学病院」行きで約10分、
メディアテーク前下車

【駐車場】

せんだいメディアテークのウェブサイトをご覧ください。
→ <https://www.smt.jp/smt/facilities/service>

新型コロナウイルス感染対策について

体調のすぐれない方はご来館をお控えください・マスク着用、手指消毒、咳エチケットにご協力ください・入場人数を制限する場合があります・感染状況に応じてイベントの内容を変更する場合があります

お問い合わせ

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局

〒980-8546 仙台市青葉区一番町3-11-15 仙台フォーラス7階

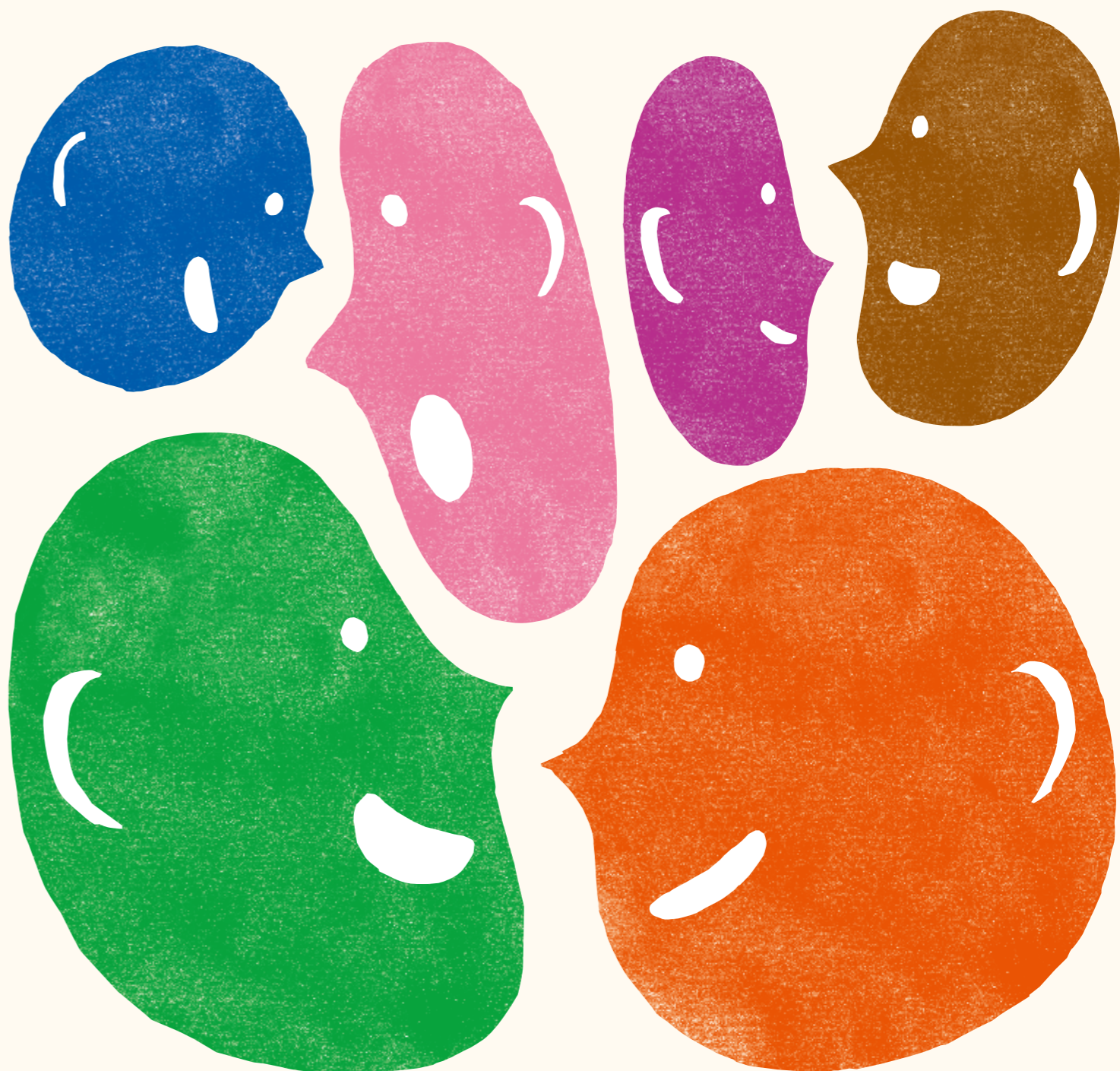
【TEL】070-5328-4208 【Email】soup@ableart.org

【FAX】022-774-1576 【WEB】<http://soup.ableart.org>

第5回 障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市

障害のある人の
芸術文化活動を
大きく、みる、しる
3日間

きいて、みて、 しって、見本市。



2023年

2月10日(金) - 12日(日)

10:00 - 20:00 (12日は18:00まで)

会場 せんだいメディアテーク
1階 オープンスクエア 他

入場
無料

さあ、見本市でたくさんの人・モノ・ことに出会いませんか。「障害のある人と芸術文化活動」に関する多様な個人・団体・活動を紹介するこの見本市。表現する人たちの様子を知りたい、芸術文化活動の機会や場を探している、活動の相談先を探しているなど、次の一歩を踏み出すヒントとして、各プログラムをお楽しみいただき、新たな出会いの場となれば幸いです。

障害と芸術文化のブース

障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）は、障害のある人と文化芸術をつなぐ中間支援のセンターとして活動しています。今回の見本市では、「アクセス」「連携・協働」をテーマに2022年度の活動事例をパネル展示や映像で紹介します。

アクセス～つなぐ、つなげる

〈いつでも、どこでも、誰でも〉自由に文化芸術を鑑賞し、体験できることを目指して、人と場をつないできた活動事例を紹介します。

- ▶せんくら・リラックス・コンサート（公益財団法人仙台市市民文化事業団）
- ▶フラットシアターフェスティバル（NPO法人アートワークショップすんぷちよ）

連携・協働～ともにつくる

福祉・文化・教育・企業など、異なる領域が連携・協働することで生まれているプロジェクトを紹介します。

- ▶笑顔でつなぐSDGs七夕飾りプロジェクト（障がい者サポーターズGolazo！、尚絅学院大学）
- ▶アートとしごとラボ（一般社団法人アート・インクルージョン）
- ▶Fujisakiday（株式会社藤崎）
- ▶AOBADORI MACHI to HATARAKU（青葉通まちづくり協議会）

令和4年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務（運営：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン）



撮影：三浦晴子

ワークショップ・舞台芸術体験 2月11日（土） 参加無料

① 小さな人形をつくって、舞台上で即興劇をしてみよう！

〔時間〕1回目…11:00～12:00
2回目…16:00～17:00

紙や布などの身近な材料を使って手のひらサイズの小さな人形をつくります。できた人形を使って、その場にいる人とおしゃべりや即興劇を楽しみましょう。

ファシリテーター：みんなでつくるよ広場の人形劇！
共催：みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会



② フラットシアターフェスティバル 多感覚演劇「フェスタ！」体験版

〔時間〕13:00～14:00

声をだしても、上演中にじっとしていなくても大丈夫。さわる、きく、みる、かんじるなどたくさんの感覚を使いながら物語の世界を楽しむ演劇作品を体験できます。

共催：NPO法人アートワークショップすんぷちよ



③ インクルーシブスポーツ キャラバン mini

〔時間〕14:30～15:30

ふらっと立ち寄り、どなたでもからだを動かして楽しめるゲームを用意しています。大学生と一緒に遊びましょう！

協力：障がい者サポーターズGolazo!、尚絅学院大学



参加方法

- ①…要申込（各回先着25名）
- ②、③…申込不要、直接会場へ

申込フォームはこちら



南東北・北関東ブロック障害者芸術文化活動支援センター研究発表会

2月11日（土）13:00～18:00 参加無料

障害のある人がそれぞれの地域で文化芸術を楽しみ、活動がおこなえるよう、都道府県ごとに「障害者芸術文化活動支援センター」が設置されています。今回の見本市では、南東北・北関東ブロック（宮城・山形・福島・茨城・栃木・群馬）の支援センター※が会場に集結！各地域の取り組みを紹介します。※支援センター準備室も含む

発表者：〔山形〕武田和恵（やまがたアートサポートセンターら・ら）〔福島〕小林竜也（はじまりの美術館）
〔茨城〕小堀幸子、ミヤタユキ（いばらき障害者芸術文化活動支援センター準備室）〔栃木〕五味潤 仁美（とちぎアートサポートセンター TAM）
〔群馬〕多胡宏、野村裕子（ぐんま障害者芸術文化活動支援センター準備室）〔宮城〕高橋梨佳（障害者芸術活動支援センター@宮城/SOUP）

令和4年度 厚生労働省 障害者芸術文化活動普及支援事業

参加方法

- 要申込（先着30名）
- ※申込方法はチラシ裏面をご確認ください。



共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック ちがう、かかわる、かわる～障害のある人とない人がともに

2月12日（日）10:00-16:00 参加無料

〔対象〕すべての人、障害のある人と家族・支援者、福祉事業所の方、特別支援学校・学級の方、市民センターなどで社会教育に関わる方 など

手話通訳
要約筆記
付き



撮影：濱田直樹 (KUNK)

今日、障害のある人たちを支える条件は、かつての社会に比べれば、充実しつつあるようにみえます。しかし、障害のある人への差別意識が解消されたとはいえ、むしろ、差別や偏見の根の深さと広さが鮮明になっている社会なのではないでしょうか。

そのなかで、近年大事にされている考え方が「合理的配慮」です。これは、どこかで定められた共通の基準に沿って諸条件を整えるのではなく、「その人にとって何がバリアか」を理解し、それにきちんとして沿った配慮を積み重ねていくことで、社会全体を、すべての人にとって暮らしやすいものに整えていく、という考え方です。つまり「合理的配慮」は「当事者を知る」ことから始まります。

第一部は、このことを「すべての人びとのための学びの場」であるはずの社会教育施設でいかに取り組んでいくのかを、「スウブノアカデミア」のこの間の挑戦と、全国の情報をもとに、学びあいます。第二部は、そうした取り組みを、社会全体にいかを広げていくかを、海外の取り組みにも学びながら、みんなで考えあう時間を目指します。

第1部

〔時間〕10:00～12:30
〔会場〕1階オープンスクエア…要申込（先着40名）

① おためし「スウブノアカデミア」～障害のある人とつくるまなび

障害のある人とつくるまなびのプログラムをおこないます。

ファシリテーター：櫻井育子（生涯発達支援塾TANE）、佐竹真紀子（一般社団法人NOOK）
橋本勇人（仙台市生涯学習支援センター）、寺崎舞（仙台市生涯学習支援センター） 他

② 考えるテーブル「インクルーシブな学びの場をつくるには？」

わたしたちが暮らす仙台には、学校以外にも、たくさんの学びの場があります。図書館や市民センター、美術館や博物館などなど。そうした学びの場が、本当の意味で「誰も」が活用できるようになるには？ 障害のある人の生涯学習を支える実践に取り組み、かつ全国の動向を調査してきた小林さんと松田さんとともに考えます。

おはなし：小林繁（明治大学）、松田泰幸（元町田市公民館職員）（『障害をもつ人の生涯学習支援』（旬報社、2021年）編者）

第2部

〔時間〕13:30～16:00
〔会場〕7階スタジオシアター…要申込（先着70名）
オンライン（YouTube配信）…申込不要
〔進行〕石井山竜平（東北大学）

話題提供「障害者の生涯学習施策」

登壇：鈴木規子（文部科学省障害者学習支援推進室長）

① おはなし「ゆさぶれ!? わたしたちの既存の『生涯』観と『障害』観」

サモアを主なフィールドに、人びとが“障害”をどう受けとめているかを調査している倉田誠さん。“典型”から外れているとみなされがちな生き方を拾い上げ、人間の人生のとらえ方をめぐる既存の縛りを解きほぐすことをめざす“生涯学”からの知見を通じて、わたしたちの生涯観・障害観をゆさぶる時間になります。

おはなし：倉田誠（文化人類学/東京医科大学）

② ディスカッション「ミライのショウガイガクシュウ」

障害のある人もない人もともに混ざり合い、育ちあっていける社会にむけて、どのような機会の創造が必要なのでしょうか。そんな未来の生涯学習、さらには未来の社会を創り出すためにすべきこと、できることについて、みんなで考えます。

登壇：倉田誠、小林繁、松田泰幸 他

終わりに 感想とおもいの共有時間

主催：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、文部科学省
共催：仙台市教育委員会、せんだいメディアテーク（公益財団法人仙台市市民文化事業団） 後援：宮城県教育委員会 協力：生涯発達支援塾TANE、一般社団法人NOOK、TURNAROUND
文部科学省委託事業 令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

コンファレンスの背景

障害のある人の学校卒業後の学びの場が充実していないことが課題とされ、文部科学省では、平成30（2018）年から障害のある人の生涯にわたる学びや文化芸術、スポーツに関する活動の支援を政策的に打ち出しています。

スウブノアカデミアとは

障害のある人の『まなびの場』を考えるプロジェクトです。今年度は、まなびたい本人が「好きなこと」「やってみたいこと」からワークショップや講座などのプログラムを企画しました。



同時開催

展示
「スウブノレコード
～わたしたちのまなびは
こうしてできた」

〔会場〕1階オープンスクエア

会場参加の申込方法

チラシ裏面をご確認ください。

YouTubeライブの参加方法

プログラムの開始時間になりましたら、当事務局のWEBサイトでお知らせするライブ配信のリンクからご覧ください。

WEBサイトはこちら

